

平成 29 年度分担研究報告書
鹿児島県のフォローアップ状況と課題（母子感染者への対応）

研究分担者（名前）根路銘安仁（所属）鹿児島大学医学部保健学科母性・小児看護学講座
研究協力者（名前）河野嘉文（所属）鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
（名前）山本直子（所属）鹿児島大学医学部保健学科母性・小児看護学講座
（名前）水野昌美（所属）鹿児島大学医学部保健学科母性・小児看護学講座

研究要旨

（目的）鹿児島県のフォローアップ状況の確認とフォローアップ中に生じた課題を明らかにする。
（方法）鹿児島県で同意取得した HTLV-1 キャリア妊婦の調査票、エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)、PSI 育児支援アンケート、栄養ダイアリーの平成 29 年 12 月 31 日時点までの回収率を算出し 1 年間での変化を検討した。また、フォローアップ中に生じた課題を検討する。
（結果）鹿児島県で同意取得した HTLV-1 キャリア妊婦は 343 名で県外施設への移行・辞退者は今年度いなかった。脱落例は昨年までの 21 名から 7 名増加した。3 歳まで 197 名が達し、調査票を回収できたのは、110 名(55.8%)であった。途中の回収率は、1 歳調査票 77.9% 81.4%、PSI 67.1% 72.9%、栄養ダイアリー 63.7% 68.4%、1 歳半調査票 80.1% 85.8%、3 歳調査票 51.1% 55.8%と上昇していた。しかし、2 歳時調査票のみ 64.1% 55.9%と低下した。
脱落例は 1 歳以降の症例で総て住所不明や電話不通など音信不通が原因であった。一方課題として母子感染対策を行ったが、母子感染が成立した症例を経験した。
（考察）調査票の回収率は上昇していたことから、研究協力者へ連絡確認を強化していることは有用と考えられる。しかし、脱落例は少なくなったものの、今年も 7 名増加した。総て住所不明や電話不通など音信不通が原因であり、連絡を強化しているが対策に苦慮している。
母子感染対策(人工栄養)を行った症例 1 例を経験し面談を行った。やはり心理的負担が大きく、カウンセリング等対応が必要と考えられた。今後、鹿児島でのフォローアップ症例でも約 10 名が母子感染すると考えられるため、対応についても研究する必要性がある。
（結論）フォローアップを強化し、今後も回収率を高める努力の継続が必要である。また、十分に母子感染対策を行っても、一定の確率で母子感染例は発生する。母子感染例に対しての告知時およびその後の情報提供内容などのフォローアップ体制についても整備が必要である。

A. 研究目的

鹿児島県の母子感染対策のコホート研究に参加者のフォローアップから生じた問題への対応から、新たな研究課題を見出す。

(1) フォローアップの現状確認

調査票の回収率は年齢が上がるにつれて下がる傾向があったため、研究協力者へ、郵送および電話による連絡確認を強化している。その効果等、鹿児島県のフォローアップ現状を確認し評価を行う。

(2) フォローアップ中に生じる課題への対応

フォローアップ中に明らかになった課題に対し、対応策を検討する。

B. 研究方法

(1) フォローアップの現状確認

鹿児島県で同意取得した HTLV-1 キャリア妊婦の調査票（出生時・1 か月・3 か月・1 歳・1 歳半・2 歳・3 歳）エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)（1 か月・3 か月）PSI 育児支援アンケート（1 歳）栄養ダイアリー（1 歳）の平成 29 年 12 月 31 日時点までの回収率を算出した。また、この 1 年間での辞退・脱落者の変化を検討した。

(2) 課題の発見と対応

フォローアップ中に明らかになった課題に対し、対応した。

C. 研究結果

(1) フォローアップの現状確認 (図1)

鹿児島大学で同意取得した HTLV-1 キャリア妊婦は 343 名で県外施設への移行は 7 名(里帰り分娩で 1 か月健診後の 6 名、1 歳半以降に県外転居 1 名)で、この 1 年間で変化はなかった。

経過中の辞退者は 20 名(平成 27 年まで 19 名、平成 28 年 1 名)で、今年度の辞退者はいなかった。

また、脱落例は昨年までの 21 名から 7 名(1 歳まで 1 名、1 歳半まで 2 名、2 歳まで 3 名、3 歳まで 1 名)増加し 28 名であった。

3 歳まで 197 名が達し、調査票を回収できたのは、110 名(55.8%)であった。

回収率は、3 か月調査までは昨年と変わらなかった。1 歳調査票は 77.9% 81.4%、1 歳半調査票は 80.1% 85.8%、3 歳調査票は 51.1% 55.8%と上昇したが、2 歳時調査票は 64.1% 55.9%と低下した。

また、1 歳時の PSI 67.1% 72.9%、栄養ダイアリー 63.7% 68.4%と上昇していた。

(2) フォローアップ中の課題への対応

a) HTLV-1 母子感染例への対応

2018 年までに母子感染例を 1 例経験した。母子感染対策(人工栄養)を行った症例であった。母子感染の連絡があり、面談を行った。

b) HTLV-1 妊娠時スクリーニング検査陰性であったが母子感染した 1 例

昨年経験し、その考察を行い、論文化した。

D. 考察

(1) フォローアップの現状確認

調査票の回収率は、2 歳時を除き上昇していたことから、研究協力者へ、郵送および電話による連絡確認を強化していることは有用と考えられる。

しかし、2 歳調査票の回収率が低下している理由は不明である。推測の域を出ないが受診時に特別な項目がないこと、定期予防接種など受診するタイミングが無いことなどが影響している可能性がある。

脱落例は少なくなったものの、今年も 7 名増加した。総て住所不明や電話不通など音信不通が原因である。定期的な連絡が重要であるが、子育て時期で、親の仕事の都合等での転勤などがあり対策に苦慮している。

(2) フォローアップ中の課題への対応

a) HTLV-1 母子感染例への対応

母子感染対策(人工栄養)を行った症例 1 例であった。母子感染の連絡があり、日時と場所を調整し面談を行った。

やはり心理的負担が大きく、カウンセリング等対応が必要と考えられた。今後、母子感染対策がしっかり行われても、約 3%の確率で母子感染が成立する。鹿児島大学でのフォローアップ症例でも約 10 名が母子感染すると考えられるため、対応についても研究する必要性がある。

b) HTLV-1 妊娠時スクリーニング検査陰性であったが母子感染した 1 例

今後、母子感染対策で 3 歳時抗体検査が実施される。男児であれば、将来、事前にキャリア男性と認識しているものとなる。その男児に対しても将来、性行為感染およびそれに伴う母子感染予防についての情報についての需要があると考え、この分野も今後対策を含め研究を進める必要性がある。

E. 結論

(1) フォローアップの現状

研究協力者へ、郵送および電話による連絡確認を強化して調査票の回収率は上昇しているが、音信不通が原因の脱落例への対応に苦慮している。

(2) フォローアップ中の課題

母子感染例に対しての告知時およびその後の情報提供内容などのフォローアップ体制についても整備が必要である。

F. 健康危険情報

無し

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Nerome Y, Kawano Y. Failure to prevent human T-cell leukemia virus type 1 mother-to-child transmission in Japan. *Pediatr Int.*59:227-228, 2017

H. 知的財産権の出願・登録状況

無し

			同意取得者	343		
辞退	5			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	0		出生時調査票	99.7	338	337
辞退	4			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	0		1か月調査票	96.4	334	322
			1か月EPDS	85.3	334	285
辞退	4			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	2		3か月調査票	92.5	322	298
県外施設移行	6		3か月EPDS	78.0	322	251
辞退	6			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	10	(+1)	1歳調査票	81.4	291	237
			PSI	72.9	291	212
			栄養ダイアリー	68.4	291	199
				該当者は2016/11生まれまでの数		
辞退	0			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	6	(+2)	1歳半調査票	85.8	289	248
				該当者は2016/6生まれまでの数		
辞退	0			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	8	(+3)	2歳調査票	55.9	272	152
県外施設移行	1			該当者は2015/12生まれまでの数		
辞退	1			回収率(%)	該当者(人)	回収済(人)
脱落	2	(+1)	3歳調査票	55.8	197	110
				該当者は2014/12生まれまでの数		

図 1 研究対象者フォローアップ状況